



国際連合 生物多様性の10年

生物多様性条約事務局長 国連事務総長補 Dr. Cristiana Pasca Palmer の
ビデオメッセージ（仮訳）

国際生物多様性の日 2018年5月22日

みなさま

25年前の1993年12月、生物多様性条約が発効しました。

世界が達成に数十年をかけた持続可能な開発のためのプロジェクトが実現した瞬間でした。

1993年以来、条約締約国は生物多様性保全、その持続可能な利用、そして遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分のために行動してきました。また、締約国は市民社会、経済界、先住民、そして地域社会等とのパートナーシップを築いてきました。

これは大きな違いをもたらしました。生物多様性と生態系サービスは持続可能な開発のための2030アジェンダの核心部分です。気候変動のためのパリ協定にも生物多様性は含まれています。世界経済フォーラムは生物多様性の損失を非常に大きなリスクであると認識しています。国連食糧農業機関も生物多様性に焦点を当てた活動を組織しています。パリは生物多様性の都であると宣言しています。そして、世界中の国々、地方政府、市民社会が生物多様性を守るため、それぞれの行動を加速させています。

しかし、一方で、生物多様性は世界各地において驚くべき速度で損なわれ続けています。自然のこのような損失は気候変動、水の安全保障、食料安全保障、公衆衛生など他の世界的な課題と相まって、地球上の人類の存在にとって壊滅的な結果をもたらす可能性があります。

したがって、私たちはこの自然破壊をとどめるために全力でやるべきことを実行しなければなりません。「戦略計画2011-2020」の実施のため取組をさらに加速し、生物多様性の世界目標である「愛知目標」の達成へ向け前進していくための時間はあと2年です。同時に、2020年から今世紀半ばへと私たちを導き、自然共生社会の実現という世界共通のビジョン（長期目標）を2050年までに達成する自然環境のための新たな政策をデザインする時間も2年あります。

残された時間は多くありません。しかし、自然と生物多様性の利用のしかたを協力して変えるために、私たちが共に行動すれば大きな力となります。

まさに、政府、経済界、先住民、地域コミュニティ、そして個々人が私たちの自然と生物多様性への関わり方におけるパラダイムチェンジを引き起こすことが可能になるような変革的で体系的なアプローチが必要なのです。

革新性と創造性によって、地球上の生命を守るための解決策と実践的なアイデアを生み出していこうではありませんか。

発想の力を利用して2050年までに人間が自然と共生しながら繁栄し発展するような状況を作っていこうではありませんか。

この夢を現実のものとするため、次の25年の歴史へと思い切って最初の一步を踏み出しましょう。

国際生物多様性の日に際し、お祝いを申し上げます。



www.cbd.int/idb/2018